

走 寸 景 I

坪谷小給食室の起工 坪谷中総合工作室、 式が11月5日に行われた

うたわれています

参画するよう期待する。

会に役立たせ、

社会活働に

されています

青年婦人協議会等各種団 他の対策を構ずるよう約束 が持たされ具体的な施策と すめ福祉の向上を図る責任 の基本的理念を広くおしす 委員等直接福祉関係の仕事 老人クラブの育成援助その して年一回老人の健康審査 かていく上において民生 たずさわる人はもとより 私達が今後この仕事をす 一方国とか県市町村はこ ば道路を歩くとき、しっか したいのであります。 せんが、私はもっと老人と して簡単な勉強をおすすめ

ブの会合に時間を守って集 りと右側を歩くとか、クラ 強することによって若い者 の立場を理解しどんな人と ぱな勉強だと思います。勉 正しく守ること等も、りっ まる等新しい社会の制度を も気楽に話ができるように 家庭の中で若い者に

動を指導助 手初めとして五つの老人ク ありますので村では仕事の 本年は福祉法発足の年で 家庭の幸福が保たれると

村 祉を図るため、 その第一として将来の日本 祉対策でありまして、一般 五年には精神薄弱者福祉法 国を背負ってたつ児童の福 は一部特定の者に対する福 進歩のあとがみられますこ か致しますが、このことに 寺を制定し、一方において ようやくその緒についた感 ころであります。 の保障を実施する等々戦 は真に慶びに堪えないと によって、より高くより が国の厚生行政は急速な 生活困窮者の保護と生活 建設を標榜して発足以来 和憲法を制定し福祉国家 金法の制定がなされて、 然しながらてれらの制度 ましては三十四年に国民 民に対する福祉対策につ いては更に国民全体の協 の幸福はあり得ないと思う

て最近の平均寿命は男六十 がのびたとい 国の死亡率は非常に低下し てまいりまして一般に寿命 のであります。 あります。 な施策が痛感される次第で 等の問題を解決する総合的 諸情勢の中にあってはこれ 御承知のように戦後我が 特に現在のような複雑な

充実を大きく期待すると

い制度とするよう之が向

い知識や経験をより一においても今までに得 れるものとし、 全で安らかな生活が保障さ きたものとして敬愛され健 理念として老人は多年にわ 向上を図ろうとするもので 換言すれば、国民のすべて べきか等の大要が決められ 心身の健康に留意して今後 たり社会の進展に寄与して あります。すなわち基本的 が新たな心構で老人の福祉 自身としてもどの様にある いても今までに得た広 老人は益々

大事なことにちがいありま のであります。 むつかしい本をよむことも 手で、という考え方に立っ 念願しています。老人福祉 強をしてもら 様も又しあわせは自からの 愛される老人、役に立つ老 人になっていただきたいと えらい人の話を聞いたり いただき老人としての勉 の発足とともに老人の皆

と確信する次第であります ころに村の平和があるもの ないと思うのであります。 どちらが犠牲になってもお との協力で成立つもので、 要じゃないかと思います。 互の幸福というものは守れ ものもやはり老人と若い人 応してゆくという努力も必 家族の中での幸福という

例え

る次第です。 の特別の御協力をお は次のとおりです。 運動」の と存じます。 「美しい東郷村」を育てた これを強く推し進め 考え方 この度、村民運動とし 構想 その考え方

といっても、その範囲は広 たいものであります。 まわりを緑で包み、 また目的とするところは遠 く内容も多岐に亘ります。 一くちに「美しい郷土」

罪や事故がおこらない りますが今年は防 になると歳末の防犯運動を くりひろげ、

警察では、まい年十二月 いまわしい犯

月です。このうち死ん 一十二月中の交通事故防止 一六件で一年中で最も

私たちはまず自分の家か をかかげております。 の生活をしたいもので さないという心がけで いては部落から被害者

車えら を少くして楽しい正月が迎 れる人は法に定められた事 起としやすいわけです。 をよく守っていただき れるように、ぜひ自動 イクなど、を運転

昭和二十二年、 ころであります。

愛する社会をお互の手で されることであることは論 喜ばしい限りであります。 されたことは何と言っても をまたないところでありま は老後の生活の保障が確立 に対して僅少ではあります 老人に対する福祉につき を社会の一員として活用敬 って行かなければ真の老人 思いますに老人の幸福と が、それと併行して老人 して老後の生活保障がな 一応年金交付の制度が発

ければならないか、又老人 な仕事をしなければならな 村や社会の人々がどのよう 具現するため国とか県市町 本的理念と、基本的理念を りますと、社会の中の老人 ています。 要を決定したものが所謂老 の立場ということが大き 人の数も年々増加してまい 六才女は七十一才といわれ いか、どのような心構でな 問題となり老人の福祉対策 が真剣に考えられ、その大 人福祉法であります。 このように寿命がのび老 この法律は老人福祉の基

条にいう社会のために寄与 ることの意義を見出すこと うのであります。 に努力する時代であると思 経験を更に社会に役立たせ れるとともに豊かな知識と してきたものとして敬愛さ 私は老人の総ての人々が すなわち老人福祉法第三

わけですから老人の幸福は ら尊敬しなければならな 持つ知識経験をこの社会に らないと思い、また自分の 若い者で作るという努力が て非常に有意義に持たれる 老人に接するならば、その 生かさなければならない老 人間というものは社会に於 というように真心をもって 人は社会に貢献したんだか 又老人の方も若い者に順

豊かな心掛けによって行う ことは仲々容易なことでは きたいことは、身近かに数 とすれば、決して難かし ありませんが、一人一人が 分のことくして、実行する 多くありますが、これを自 に郷土を美しく浄化してゆ には程遠い感じが致します 日常の私たちの生活の中 、清潔な生活環境、 花の多い

かせ環境を清潔にし、美し 生かし、またその美しさに まわりを緑で包み、花を咲できるでしょう。私たちの とうの喜びを味わうことが 東郷村を誇り自からもほん いためでありましょう。 の天恵を充分生かしていな い新しい郷土づくりに努め げてこそ、私たちは始めて はじない生活環境を作りあ 恵まれた自然の美しさを

どから解放された学生や勤 休みや休日で学校、職場な ろの事故が増加し、 こんでいく傾向がみられて 労青少年などが、この時機 加わって毎年犯罪やいろい おります。 に不良化し悪への道に入り 月は心のあわただしさも 年の総決算期である十 歳末防犯について また冬

での争いごと、ぐれん隊や(小暴力というのは酒の上 3 2スリ被害の予防 1盗犯の防 暴力による被害の予防 しし舞いなどの行

所 そのためつい速度を出しす ながれている自動車の列、 ことで、どうしても事故を したりするといったような 次に多いのが「わき見運て多いのが「徐行違反」で ぎたり、よっぱらって運転 となっております 転」と「よっぱらい運転」 調べてみますと特に目立っ 今年は一件でも交通事故 歳末は交通量もふだんの また事故の原因について

人福祉法施行に 会の一員であることを自覚もクラブを通じて勉強し社 していただくことにより、 ますが、おとしよりの方々

昭和38年12月20日 発 行 所 宮崎県東旧杵郡 村 役

協力し合って将来に亘ってかなことから出発し話合い

てとは当然

のことであ

根気強く、この問題を取

4

水

ります。しかしながら行う

ことは手近かにあり、

をはかるため、必要なにおいてはこの運動の

園咲枇 乙静 のき杷 こち 真籠のろう

屋り花寂ねにた も

二、ねらい

この運動の実施にあたっ

実を結ぶものと信じます。 それは必ず美しく、

豊かな

郷

長

と確信する次第でありま 壮年期を第二の人生、老年 少年期を第一の人生、 青 人になると思います。

よう一層の努力をしたい考でって明るい生活ができる てもらうことにより村内と

各位が老人のよき隣人とな り老人の福祉がより一層

念いたしますとともに村民 が益々健康であることを祈

周囲に見受けられる美しく

もっとも、現在私たちの

ない場面を、美しくして行

くことに努力することは勿

運動の趣旨から、各機関に民間運動として進めるこの

趣旨から、各機関に

本方針を定め、

そのため次の五項目を当

ることゝなりますが、 各団体も所要の対策を に留意したいと思います。

ならないことについては、

す」め方

積極的に必要な対策を進め

る美しさを作り上げること 考え、東郷村だけの特色あ 然を背景としたデザインを ては、それぞれの美しい自

終りにおとしよりの方々一するものであります。

上するよう御協力を御

結成された老人クラブ

名

称

会

長

名

いただき社会活動に参加し

極的に人生の意義、人間の 義を見出そうとする人生で 生第二の人生と又異った意 期は第三の人生といわれて 生き方を広く深く求めよう 生の終末期でなく第一の人 いますが、第三の人生は人 とするものであると考えま あると考えられ、もっと積 んどうをみてやるんだ、あ ために貢献したんだからめ ために貢献したんだからめ 人になれると思う次第であったなれる老人、敬愛される老があるとによって愛 b いと思います。

福祉を作りあげなければな著え、若い者も、もっと真剣に 老人に対する問題について やさしくしてやるんだ。 るいは弱くなったんだから 方で老人に接してはならな 老人になることを思うとき いうようなお情け式なやり 人間は必ず 3 羽迫鶴小福 区

之野野

朗喜鶴喜福

生生声楽寿

会会会会会

寺佐渦寺塩

田藤尾原月

市吉郎博郎

和惣和

瀬 名

坂内内田

東郷村を美しく

よ

れ緑に包まれて自然の美に 件には恵まれておりますも って美しい村としての条 まし 自然は美しく、 美しさを讃え、私たちもそ れを喜び誇りとしておりま

とりまく環境には美しさと の批判をうけることも少なは程遠いものが多く、一般 くありませ しかし、私たちの生活を

然の美しさに満足し、折角

出 山 所

陰警察官派出 たより արդարումիր արդի

が人がふえています。が人がふえています。

送ることからはしと思います。



路 清 掃 寸 土、チリ・あるのあるの あります。 K

ととをねらいと て、この画動をして、この画動をし 四、当面の目標 具体的な計画を 捨てない生活を 進めたいもので たて、村と連絡 チリーつな 紙くづ一つ 村民みんな 面の目標にします。

お互に話合ってすゝめたい ついての思想を普及させる 5 美化あるいは、浄化に 4 を整え、 3 をきれ 2 のは取り除くこと。 とと。 育てること 以上それぞれの進め方は 広告物等で、不用のも 環境衛生のための施設 道路その他の公共施設 花木を植えること及び いにすること。 その向上をはかる

じめ、

に 活のなかで清掃、美化および浄化に心がけ、ひいてび浄化に心がけ、ひいて び浄化に心がけ、ひいて びかい で は住宅の周囲や田圃から道 村民一人一人の身近かな生 家庭や仕事場など、 協力を求めるものとします 続けられてゆくよう、村民 亘る根気強い運動となって が必要でありますが、その 村内各機関の積極的な協力 のこの運動に対する認識と からみて、あくまでも をとらなければならな して村民全体の将来に 人一人が、自分のと

(4)分館の表彰式等に対する

っては評価員を作り、

参加者の状況は

等を重点事項として審査

場の評価制を採っているだ

りに見せられたが、撰果

増植意慾の昂りをまのあた

うなりが流れ、挙町一致

ほ園の肥培管理状況

を投じて完成したマンモス は農協が一五、〇〇〇万円

撰果場で数日後の撰果作

(園地採点) と出荷現

郷

優秀賞 迫野内公民館

優良賞 迫公民館

坪谷公民館、

寺

五日より一ヶ月に亘って撰 は実に徹底したもので十月

果及び出荷直前の五十数町

童であった。羽茂町農業構 開始を控えて機械整備に大

特別賞について

越表公民館

進歩賞

八重原公民館、

(1) 農業の経営を変えなけれ

とした中に富有柿大の色鮮

進め最終的仕上段階に於

て、指定を受ける積りであ

は、当分此のままで事業を

造改善事業の指定について

である。葉枯一枝なく青々

事さは、只感じいるぼかり の柿園の行届いた管理の見

かな赤い柿がたわわに実っ

いる様は目も醒めるばか

して経済効果の高いもの

ならない農業状勢から

反当り最も収益の高い

りで、流石は自まんのお

現在迄に有線放送施設の際 るとの事であったが、村は

三百万円を助成しており、

代に即応した販売し易一た次第である。

事に対する関心度合は

総合審査については

化祭の審査の概要を報

先進

地視察報告書

(2)

東鄉村議会産業経済部委員長

ありません。

(2)各種部間の出品物行事の

(3)一年間のしめくくりとし

区民の文化祭の考え方

撰果場等を視察した次第で

役場産業課長等と

あるが製品の評価決定に当

るところにブルド

ず町周辺の高山

の頂上、

語する杉田氏の言葉に違わ

〇町歩の開拓地があると豪

## 第十六回文化祭報告 く、消費者が現在又将来

とは同慶に堪えません。 第十六回総合文化祭が十 察をはじめ各民主団体の ど参加をはじめ、その他 会裡に終了いたしました 位の絶大な御協力により 小学校で開催され、村民 校舎校庭を提供され、そ 特に各学校が文化祭行事 上体育行事や学童作品展 の御支援に対しては感 っていただいたことや の体育行事の指導にま

(1)葉菜、根菜、雑穀、果樹 中央文化祭中央審査につい 果樹、仔牛生産、目的集 ち五〇点を選んだ。 団グループ、乳生産に分

(5) 俵米、甘藷、椎茸、 (4)流通機構の確立をはかる 葉たばて、ラミー、まゆ ため系統による販売 共に要求されると見られ 動の進展を祈念いたします ともに今後とも各公民館活 して

②出品された品については ラミー、椎茸、農産加工 して考えた場合から審査 農芸品に分って審査した 荷造り等、商品と

は農業近代化資金借入七、

共同撰果場は一五、六四五 着工、同年九月に竣工した であり昭和三十八年五月に

等を専門別にしかも統合的は廃鶏の処理、牛乳の処理

ある。

推進を図って行くので

松」と万葉集の赤人作「不

尽山」等で両面十四分入っ

ています。

千円を要し、その資金計画

業について

る作物

等五四点を選んだ。 以上簡単に審査の報告と 出品点数四〇五点の中か 等一七点、二等三〇点

るものを列挙すれば 年一四〇万円の補助を行な るが、これに対し農協は 動しているのが目立ってい 資金五、 織に各種生産グループが活 ている。特に組合の下部組 っている。グループの主な 種子採取、養鶏養豚、 〇〇千円、補助金(県) 四〇〇千円、農協自己 七四五千円となっ

農協職員は約六〇名を数え 活動を続けている由である を数えており、 を採り特に営農課は、 るグループも現在既に三つ 〇〇万円の所得を越えてい あるが、年間を通じ一、 果樹等の各グループ 煙草、酪農、水稲、 営農、 000万円目標に 金融の三課制 他のグルー 0

茂町農業構造改善事業成功 導員三名が配置されて た次第であるが、惟うに羽 な報告を除いた概況を述 の部門別に別れ専門営農指 以上紙面の都合で数字 いる 迄も計画を遂行する様に決 基本計画を樹立した事に始 められてある。 まる。この基本計画は五ケ 毎に実績を検討し、未処 を決意し、村造り五ケ年 ケ年計画に繰入れ、飽く 事業については更に次の

事業の推進母体は農協中心一にたえ自主的にこの事業の が協力一致事に当ったこと 農協が事業推進の中心とな 屈の精神をもって育成強化 の要因と見られるもの れていること。農民が困難 したこと、町役場、農協等 傭した事、立地条件を研究 よき指導技術員を長期に雇 っていること。市場に恵ま し適地適産物を導入し、不 十名単位の小集会を催し、 来上った土地基盤整備計 主総合的計画であった。出 長の独裁的な構想をそのま 完全に徹底が期せられた訳 上ったいわば玉里村民の自 村民の一人一人の意見を であるが、その方法も村 の素案は、役場職員の手に り入れて修正した暁に出来 ま押し付けたものではなく 勿論との計画も決して村 って村内一円に啓蒙され ついては、昭和四〇年より

は約一町歩となっている。 雨又は豪雨に合うと直ちに 田三八〇町、畑三三〇町、 合併して現在の玉里村とな が村長に就任早々にして玉 被害を受けるという甚だし 全村集中的冠水地帯となり 玉里村はその位置が極端な 里村の土地基盤整備事業着 れない土地であった。昭和 十四年野口一氏(現村長) 湿地で農耕上極めて恵ま 地にある為、一度長期降 〇戸で農家平均耕作面積 林二〇〇町、農家戸数七 小村である。 を計上

的となっている。 に疾駆しており農民感謝の 貫かれ重量物を満さいし 年にはかって腰迄もぬかり 固として退け遂に昭和三十 込んだ湿田も農道が縦横に トラックや耕うん機が自由 昭和三十七年に農林省パ ロット地区に指定を受け

する予定であるが村の行な までには、この計画を完成 う農業構造改善指定事業に 補助融資により、着々と実 を進める事とし、特に基盤 第二団地、第三団地と事業 施中である。昭和四〇年度 ては既に一、五〇〇万円 整備と暗渠、排水を重点な にとり上げ本年度事業とし 改善事業を行なう事には いる点である。

発展に努力した事であろう 村の二ヶ村が昭和三十年に (2) 玉里村の農業構造改善事 と深く感銘した次第である 玉里村は元玉川村と田余 たものであるが、村民の要 等は本計画の総仕上げ迄に 修正する等飽く迄も総意に 望については原案を直ちに 前後三回の約六十日間を費 態勢を整えて、誤解や不 である。 基づく計画に努力したもの して意見をまとめて作成し の解消等にまで意を費し、 取及び説明を加える万全の による村民の声を直ちに いては電話、有線放送等 一方村長、農協長 促進を図り基幹作目として 四十二年迄に実施する計画 であり主として土地整備の

に着手する事として一億円 に一三〇町の基盤整備事業 を締んで、先ず初期の計 まつわる苦情や非難も各所 る。併し事業に着手して測 量が開始されるや、土地に 斯くして本構想は見事に実 して出発したのであ

に起り、中には基本計画の 出て来たが、計画決定後に 於いてはこれらの反対を断 部変更さえ申立てる者も 辺一市三町三村にある二十 の農協が広域構造改善地

区として統合の上、総合的 に事業を推進することに 一単位農協で巾広い構造 これは玉里村の如き小村

難があり、その効果が期待 目別の専門農協となり生産 され難いので、各農協が種 合組織の中で飼料の供給又 部門別に飼料或いは販売加 工等を夫々独自の事業と 行なう訳である。即ち連 ます。 りましたが遺憾でらレコー ドには吹き込まれていませ コードは殆絶版になってい の朗詠が盛になって参りま ん。近年各地で短歌や長詩

果樹団地として、果樹団地 を採上げ目標としては一 地区の農業構造改善事業に を一区画五〇〇町宛三区に 計画としては一、五〇〇町 拓事業を申請し、農林省直 霞ヶ浦一、五〇〇町歩の 業を一組育成中で、 想である。 は、米、果樹、畜産(酪農) 異なもので玉里村を含む周 には柿、栗、梨を作付する 轄で昭和四十年迄に計画を って研究経営中である。 七反歩以上の農家作りの構 於ける農協の運営機構は特 ことにしている。尚、この 分ち、米作団地、 する事になっている。事業 村と農林省に共同陳情して り、四十一年度より着工 特に玉里村は他の四ケ 協業体の推進につい 現在試験的に三人協 豚二五〇頭を以 鶏六、 0 農 今後の村報も村民の心の糧になる様発展と共に努 誰からも愛される人間になるのは当然な事ですが まっておきたい時もあり涙を流す事もあり、 のかと思うと感謝せずにはいら さるので心から有難とうござい では村民の皆さんのために大い も失礼して今度こそと思いつつ 村報をいただくたびに礼状を出さねばと思いつつ 情報によって感心する時もあれ 私は岐阜に就職して来て四年 いろと発展していく東郷村を見 いますが毎度の「東郷村報」忘 様な景色になりました。

にうれしくまた勇気づけられま

刀を積んで下さい。

ペンをとりまし

ことに早い。

に活やくして下さ

水調 五十巻記念吹込 朗

岐阜県土岐

市妻木町

如し」などと形容した。鳥

とか「白馬の隙を過ぐるが

兎匆々の感が深い。

くの建設譜が奏でられた。 ◇だが村としては今年も多

月には役場の事務が根本

◇古人は「光陰矢の如し」

迎えた。月日の立つのはま

るのに今年もすでに年末を だのも昨今のように思われ

尾

法 利 雄

郷土が生んだ牧水先生の

朗

したが所謂牧水調の朗詠レ 巻に ある」 長歌等をレコードに吹き込 んでお頒けすることになり れに愛誦しておられた長詩 として牧水先生の愛弟子で 達した記念行事の一環 度歌誌「創作」が五十 代表的な短歌長詩、そ 〈悟法利雄氏が牧水先

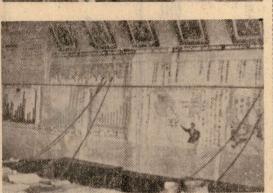
牧水先生の名調子其儘と もらえるには役立つと な風なものか大体わ わけには参りませんが る方々に牧水調朗詠が を偲ぶよすがとなりま し亦朗詠に興味を持

悟法氏はこれまで数回 盛会裡に終り、今後の農業 本年掉尾の大行事文化祭え 基盤が整えられた。 経営の上にも大きな示唆を

与えた感が深い。 三十八年はゆく個人個人で ◆ともあれあと一旬で昭和

豪、新進二十名の方が村民 行われて黒木村長が村長三 資し、四月には地方選挙が 都市指定を受けて、農業構 率化、正確化を計って村民 的に改善されて、事務の能 々に結成されて老人福祉の 老人クラブが部落ごとに次 の将来に道標が建てられた 造改善事業と相待って本村 し、七月には待望の新産業 の興望と期待を荷って当選 選の椅子につき、村議も古 に対するサービスの向上に

昭和38年12月20日発行









## 寸

- 優秀公民館表彰
- 村勢郷土室
- 4
  - 農產品展示 (坪谷)
- 中学生5.000Mロードレース

2 3 学童作品室

の「山のあなた」 寮村の A面は「幾山河」「白玉の」 でLP盤となっています。 澄みきった声量は必ず皆様 「ふるさとの」 等短歌八首、長詩「枯 を吹き込んだことがあ 」すると信じます。 がその豊かな声量、 ードはPRCの製作 「うす紅

て清々しい心で迎春の程を お祈りして、編集子も今年 等々多くの感慨もあるだろ の秀筆をおくこととする。 うが。それら心の塵は祓っ は悲しいこと、いやなこと 久々に帰り来し児等歳

彰でも斡施致します。 町十番地「新伊豆社」にな 申込みは東京都中野区住吉 っていますが東郷村牧水顕 頒価は五百円 (送料共)

かがですか東郷村の風光は

忘れず送って来て下

ます。

ば心のおく底にし

れません。 んな所迄手が届く

つめていると大変

く人の足音にも師走の響が

る。屠蘇に新春を寿ほい

啓本格的な秋の時期になり野

も山も絵に書いた

これは先日編集係宛に

来た手紙文



つも部屋の者と読みますがこ